

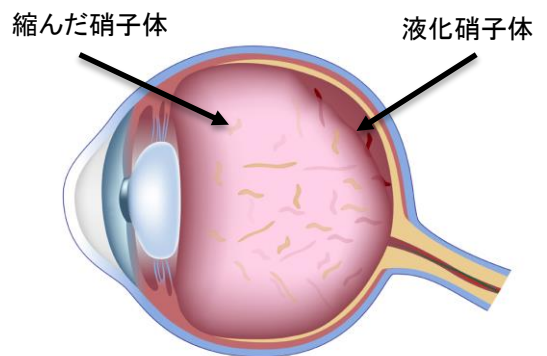
飛蚊症

症状

- ・青空や白い壁などを見た時、明るい背景で読書した時、視野の中にちらちら浮遊物が見える状態です。
- ・浮遊物の形態は、ゴマ状、虫状、カエルのたまご状、糸くず状、たばこの煙状と様々です。
- ・また、飛蚊症と前後して、目をつぶった時や暗いところで視野の端に光が走る“光視症”を自覚することもあります。

原因

- ・生理的飛蚊症は、病気ではありませんので治療は必要ありません。
- ・しかし、網膜などに病気があった場合には、レーザー治療や手術が必要になります。
- ・飛蚊症は自己判断せず、眼科で眼底検査を受けましょう。



治療

- ・飛蚊症の多くは、目の中の硝子体という所の加齢性変化によって生じます。
- ・年齢を重ねるにつれ、硝子体はゼリー状から液状に変化し、硝子体は収縮して網膜からはがれます(硝子体剥離)。
- ・その結果、萎縮した硝子体の不均一な後面が影となって網膜に映し出され飛蚊症を自覚します。
- ・しかし、中には、網膜裂孔、網膜剥離、硝子体出血、ぶどう膜炎などの病気が隠されていることもありますので注意が必要です。